

名古屋芸術大学 芸術学部 芸術学科 芸術教養領域 リベラルアーツコース
2021(R3)年度 特別選抜 社会人・海外帰国生徒・外国人留学生 入学試験1期 [小論文]

2020(R2)年 11月 21日(土)実施

問題文

下の文章を読み、問1と問2に答えなさい。

「今晚のおかず、何食べたい？」

と母親に尋ねられて、

「何でもいいよ。お母さんの作るものは、何でも美味しいから」

なんて答えて、歓迎されるどころか、

「その何でもいいってのが、一番困るのよ！ ハッキリしてよ！」

と怒られてしまったことはないだろうか。建築家の友人も言っている。

「何の欠点もない敷地に、好きなように家を建てて欲しい、と言われるのが一番辛いんだよね」

むしろ、いろいろ制限がある方が仕事がかどるし、面白いと言う。いや、それどころか、そもそも人間が住める家を建てるなど不可能と思えるほど敷地が欠陥だらけで、施主側の要望に無理があるほど、傑作な家ができるらしい。

わたしもまた、この友人と同じ人種で、今から一五年ほど前に、とある奇特定の編集者から、「どんなものでも、いつでも本にしてさしあげます」

と声を掛けられたことがあるのだが、未だに、そのご厚意に答えられずにいる。なのに、

「一週間後の今月一五日までに原稿用紙三〇枚、『一人旅』というテーマで」

と時間も量もテーマも限定されると、嘘みたいに素早く仕事がかどる。

この連載だって、週に一度の締め切りと字数制限はあるものの、

「ご自由に何でもお書きください。ただし、下ネタとイデオロギー的なものだけは、ご遠慮願います」

というほぼ野放しの自由が与えられたために、毎回テーマを決めるまでが一苦労だった。それも、選択肢に迷うなんていう高級な悩みではなく、自由になると、結局、自分のやりやすいものに落ち着く。すると、守備範囲が狭いから、同じところを堂々巡りすることになってしまうという恥ずかしいものだ。原稿より締め切りの早いイラストレーターから散々せったされた。

「せめて、テーマでも早めに」

ところが、こちらはそのテーマ探しでのたうち回っていたのだ。連載五回目だったか、苦し紛れにつぶやいた。

「絵を先に描いて。その絵に合わせて原稿書くことにするから」

その方式が結局、そのまま最後まで続いたことになる。与えられた絵をとっかかりにテーマを決めると、本を読むときも、周囲を観察するときも、そのテーマの視点から見つめることになる。今まで知らなかった物事の側面に気づかされたりする。自分の枠が広がっていくのだ。

型のない自由なダンスを踊るときもそうだ。音楽に合わせて身体をくねらせるだけの、誰もが動かしやすい動作をするものだから、みんな同じ踊りになって、見ている方も退屈だし、本人もすぐに飽きてしまう。

一つ一つの動きにいちいち細かく厳しい型があり、それを身につけるのに何年もかかるような不自由な思いをして身につけた踊りほど、自己表現も自在だし、踊っている最中の解放感も大きく、従って満足度も高い。型を身につける過程で、そのままだったら知らなかった仕草、使わなかった筋肉を使いこなすようになるために、より自由の利く範囲がいつの間にか拡大していることに気づく。

不自由な方が自由になれるのである。

自由なはずが、結局、区別の付かない服を着て、同じ言葉遣いで、同じような番組を見て、似たようなものを食べている若者たちを見ていると、とくにそう思う。

(米原万里『自由という名の不自由』 初出:読売新聞 2001年3月11日、
『米原万里ベストエッセイI』(2016、KADOKAWA)所収、下線は引用者による)

問1

「不自由な方が自由になれる」ということは、どのようなことか。著者の見解を 200 字程度にまとめなさい。自分の意見や感想は入れないこと。

問2

著者の見解をふまえ、あなたが自分自身や周囲の人の芸術作品(マンガやアニメーション、映画などをふくむ)にふれた体験のなかで、「自由」と「不自由」について考えたことを 500 字程度にまとめなさい。

出題意図

日本の高校に通う三年生徒や浪人生を対象としない、「社会人・海外帰国生徒・外国人留学生の入学選抜」という入試形態をふまえ、下の項目の関心の度合いや力をみる。

<日本の小中高以外で学んできたことの整理と分析(自らの発想と知恵を活用できる基礎力)>

- ・芸術活動にとり重要な「自由」について意識的に生活しているか。
- ・これまでふれてきた芸術作品について、整理し、内容を記憶しているか。
- ・芸術作品と「自由」の関連について、考察できるか。

<基本的な日本語運用力と思考の客観性>

- ・問題文の意味を読み取れているか。
- ・事実(問題の1)と思考・感情(問題2)を区別しているか。
- ・感想を交えず「概要」を客観的に記述できているか。問題の(1)と(2)の混同がないか。

AP:音楽、美術とデザイン、現代の多様な文化と社会に関心があり、自らの発想と知恵、感覚をいかし、地域と社会がかかえる課題を、協働して解決していく意欲のある人を求める。